

HAKODATE Guide

～函館の星をめぐる～



インデックス

- ★★★★ わざわざ旅行する価値がある
- ★★★ 寄り道する価値がある
- ★ 興味深い

- 3 ～ 6…対談
- 7 ～ 8…掲載地マップ
- 9 ～ 10…函館 ★
- 11～12…函館山 ★★
- 13～16…函館山からの眺望 ★★★★★
- 17～18…旧函館区公会堂 ★★
- 19～20…旧函館区公会堂からの
素晴らしい景観 ★★
- 21～22…基坂 ★
 - …函館市北方民族資料館 ★
 - …相馬株式会社社屋 ★
- 23～24…大三坂周辺の教会 ★
 - …ロシア正教会(函館ハリストス正教会) ★
 - …カトリック元町教会の内装 ★
- 25～26…東本願寺函館別院 ★
 - …八幡坂 ★
 - …函館港の散策 ★
 - …箱館高田屋嘉兵衛資料館の蔵 ★
- 27～28…元町の坂 ★★
 - …高龍寺 ★
 - …外国人墓地 ★
- 29～30…五稜郭跡 ★★
- 31～32…五稜郭タワーからの眺望 ★★
- 33………見晴公園 ★
- 34………インフォメーション

“ミシュラン”について

「ミシュラン・グリーンガイド」とは？

ミシュラン・グリーンガイドとは、世界的タイヤメーカーであるミシュランタイヤが発行する旅行ガイドブックです。2011年には344種類のグリーンガイドを10カ国語で販売しています。日本を紹介するミシュラン・グリーンガイド・ジャポン（仏語版）は2011年5月に改訂第2版としてリニューアルされ、新たに北海道地区も加わったことで注目を集めています。2012年1月には待望の英語版も発行されました。

そもそも、なぜタイヤメーカーがガイドブックを発行しているのか？

1889年にフランスのクレルモンフェランでミシュランを創業したミシュラン兄弟。当時パンクすると6時間以上修理に時間を要していた空気入りタイヤ。パンクしたタイヤを1891年に脱着可能な自転車用の空気入りタイヤを発明したことからこの二人の兄弟のタイヤ屋さんとしての旅路が始まりました。

当時、フランスの自動車台数は約3,000台。ミシュランはドライバー達が休日に安全で快適なロードトリップを楽しめるように、ドライブに欠かせないガソリンの補給や修理工場などを紹介するガイドブックを1900年に発行しました。それにはドライバー達が旅の疲れを癒せるようなホテルやレストランも紹介されています。これが“ミシュランガイド”の始まりです。

1908年にはミシュラン社内に「道程作成」部が設立され、道路地図を発行するようになります。当時は誰に対してでもリクエストがあればドライブの道路行程を無償で作成し提供するサービスも行っていました。1912年には道路の番号付を推進する署名活動を行い、1920年代には道路標識の設置なども行って、タイヤを使用する道路環境の整備などに非常に積極的に活動をしていきます。1920年代、道程作成には約80人のフルタイム社員が所属し、月平均5,000件も道程を作成したと言われています。

1926年には「地域別ガイド」部ができ、初の地方ガイドである「ブルターニュ編」が発行されました。表紙は赤ですが、これが現在のミシュラン・グリーンガイドの前身。旅行者が訪れる土地をよく理解し、充実した旅を楽しめるように自然や文化に触れた観光地情報を紹介しています。

それから約90年近く経った現在でも、主な事業であるタイヤ事業と同じく、人々のより良いモビリティ（動くことの喜び）に貢献するという信念から、観光業の発展にも積極的に働きかけをしています。グリーンガイドも同じ信念で制作されています。

ミシュランマン

ビブという愛称でも親しまれているミシュランのコーポレートキャラクター。1898年生まれのミシュランマンは、実は、積み上がったタイヤからインスピレーションを受けて誕生しました。ミシュランマンが白い理由は、当時高級品であったタイヤは一つ一つ白い布や紙で包まれていたからだと言われています。1995年に英フィナンシャル・タイムズにて世紀のロゴマーク賞にも選ばれています。ミシュランマンは生まれた当時から、今に至るまで、ドライバー達に安全で快適な旅をタイヤと共に提供しています。



©MICHELIN



①



②



③



④



⑤

①ミシュランが作成した道路標識（表） ②1900年に発行されたミシュランガイド ③1926年に発行されたブルターニュ編
④ミシュランマンのインスピレーションを与えたタイヤの山のデッサン ⑤パンクした車のドライバーを助けるミシュランマン（1914年）

ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン 観光対談

函館の星をめぐる

「ミシュラン・グリーンガイド」は1926年にフランスのブルターニュ地方で旅行ガイドを発行したのがはじまりです。

現在の形の「ミシュラン・グリーンガイド」コレクションは、10カ国語で344種類が出版されています。

日本版は2009年に「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」として発行されました。

日本全国の観光地などの魅力を三つ星、二つ星、一つ星のお勧め度で紹介する

外国人観光客向けガイドブックで、フランス語版、英語版の二種類があります。

今回は、日本ミシュランタイヤ株式会社 代表取締役社長のベルナール・デルマス氏と、

函館市長の工藤壽樹氏に、コーディネーターとして

北海道新聞社 取締役役広告局長の田村雄司がお伺いしました。



田村 「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」改訂版が2011年5月にフランスで発売された時に函館が初めて掲載されました。「函館山からの眺望」が三つ星として掲載されたのをはじめ、函館では21カ所が星付きの観光地として紹介されています。タイヤメーカーがガイドブックを発行することになったきっかけを教えてくださいませんか。

デルマス社長 ミシュランガイドが発行された1926年、フランスをはじめヨーロッパはまだ車が少ない時代でした。タイヤメーカーとして、もっと車を使っていたできるように、街の郊外ではどこで車やタイヤの修理ができるか、どこに泊まればい

いかといったことをお知らせするためにガイドを作ったのが始まりです。

田村 工藤市長にお伺い

します。函館は、アジアで観光名所としての地位を築

きつつありますが、今回のミシュラン掲載によって、欧米からの観光客増への期待感がありますか。

工藤市長 ミシュランのガ

イドは世界的にも有名であ

り、われわれも観光客誘致でミシュランの星が21カ所も付いたと広報しやすくなりました。昨年、「グリーンガイド」に掲載されたことを契機に、函館市では初めてフランス語の観光パンフレットを作りました。

さらにパリで開催される旅行博覧会に出展してはどうかとアドバイスをいただき、今年3月に出張したところ、ミシュランガイドに掲載されたことと、スタッフが侍の衣装で対応したことが現地の新聞にも取り上げられ、大きな反響を呼びました。

欧米では日本観光というと、まだまだ東京や京都などが主流です。函館はフランスではほとんど無名に近いでしょうが、欧米からたくさん観光客に来ていただくためのスタート地点に立つと考えております。

またグリーンガイドへの掲載は、韓国や中国など東アジア地域にもインパクトがあり、これらの地域からの観光客増加も期待しています。

昨年10月に、地域の観光関係者とともにミシュラン関係者との会談の機会があり、その際にフランス語のパンフレットを持参すると、積極的に対応が早いとお褒めいただきました。



日本ミシュランタイヤ株式会社 代表取締役社長 ベルナール・デルマス (Bernard Delmas) 氏

1954年生まれ。77年、国立高等鉱業学校卒業。79年、フランス高等ビジネス学院およびサンパウロ大学MBA取得。同年、ミシュラン フランス本社 入社。85年、日本ミシュランタイヤ 技術部 部長就任。95年、ミシュランリサーチアジア社長兼CEO就任。05年、ミシュランヨーロッパ R&D(研究開発)センター ディレクター 就任。07年9月より現職。



函館市長

工藤 壽樹 (くどう としき) 氏

1949年(昭和24年)生まれ。73年、早稲田大学第一法学部卒業。同年
亀田市採用。99年、函館市財務部長。2003年、企画部長。06年、助役。
07年、副市長(地方自治法改正により)。11年4月より現職。

道南の各都市との連携も強
め、観光客の誘致に一層努
力していきます。

デルマス社長 新幹線が

来れば、観光客の動きも大
きく変わるでしょうね。

工藤市長 新幹線の開業

によって何十万人も観光客
が増えるでしょう。とりわ
け、東北地方の人たちが大
勢来るようになり、埼玉や
北関東あたりからも、新幹
線利用でよりアクセスも良
くなるので、たくさん来てい
ただけると期待しています。

田村 「ミシラン・グリーン

ガイド」では多くの観光地を
紹介しています。デルマス社長
から函館へのアドバイスはあ
りますか。

田村

昨年度は震災の影響
もあり函館も観光客が
減少しました。回復基調
にある中で、今回のミシラン
の紹介により新しい施策
など講じる考えはありま
すか。

工藤市長

現在、函館

観光は1泊2日が主流で
す。それを2泊、3泊と滞
在型の観光地へと変えてい
きたい。

私が30年前に初めていった
海外はパリでした。エッフェル

公園と考え、「歩いて楽し
い街」を目指しており、今

の異国情調あふれる街並
みを進化させたいと考えて
います。

さらに3年後の北海道新
幹線の開業に向け、青森県や

デルマス社長 北海道

は、日本の中でも雰囲気や景色がヨーロッパに近いです。アジアの人たちは、北海道の自然に興味があると思います。観光客は歴史やきれいな景色を見ながら歩くことはもちろん、食も楽しみにしています。函館へのアクセスを良くすること、遠慮しないで街の良さをお知らせすることが大事だと思います。

田村 ミシユラン社は、レスト

ランと宿泊施設を紹介する赤いガイドブック「ミシユラン・ガイド」も発行しています。函館の食の取り組みについてのお考えを工藤市長にお伺いします。

工藤市長 函館の観光の

三大要素は、国際貿易港として開港した歴史、それによりもたらされた美しい景観、そして新鮮なグルメです。行った先々でさまざまな料理をいただくのは大きな魅力、喜びですね。函館は三方を海に囲まれているので新鮮な魚介類が豊富で、良質な野菜や肉といった優れた食材があります。しかし、今までは素材の良さだけで勝負してきた傾向があります。

これからは腕の良い料理人がいて、函館ならではの素晴らしい料理を出すことが求められてきています。素材を活かせるレストランやホテルがもっと増えて、料理人に一層腕を磨いてもらいたいと思っています。市内のお店にも「ミシユランガイド」の

星が付いたことで、地域全体の料理にかかわる方のモチベーションが高まることを期待しています。

田村 欧米人にとって函館

は魅力的な観光地であると考えてもらえるでしょうか。

デルマス社長 フランス

人は観光が好きです。自分の目で見たい、面白いものを見つけないという好奇心が旺盛です。ミシユランのガイドは、フランス人ならではの見方も反映されており、他のガイドに比べて文化や歴史の説明も多い。ミシユランのガイドが、函館の観光客誘致に大いに役立つと思います。



聞き手

北海道新聞社 取締役広告局長

田村 雄司 (たむら ゆうじ)

1976年北海道新聞社入社。
編集局経済部長、広告局次長、帯広支社長などを経て2010年6月から現職。



3 函館山からの眺望★★★★

周囲約9kmの函館山は、
な形をしていることから

函館山標高334mの山頂展望台からは、函館市街はもちろん、
津軽海峡や下北半島まで見渡すことができます。
特にパノラマ夜景は感動的な美しさです。

13 八幡坂 ★

眺望の素晴らしさから映画のロケ、CMなどで使われることも多い人気の坂。

14 函館港の散策 ★

函館の魅力を凝縮した街並みが続き、ショッピングなどが楽しめる観光スポット。

15 箱館高田屋嘉兵衛資料館の蔵 ★

函館を拠点に北前船で財をなした豪商高田屋嘉兵衛のゆかりの品を展示。

16 元町の坂 ★★

函館山の裾野には19の坂があり、情感あふれる街並みを形成。

17 高龍寺 ★

国の登録有形文化財に指定されている、北海道内でも由緒ある曹洞宗の寺院。

18 外国人墓地 ★

ペリー来航の際、病死した水兵2人を埋葬したことからできた墓地。

19 五稜郭跡 ★★

蘭学者武田斐三郎が設計した星形五角形の形が印象的な日本で最初の西洋式城塞。

20 五稜郭タワーからの眺望 ★★

四季折々とうつろう五稜郭跡の姿を堪能できる、五稜郭タワー展望台からの眺望。

21 見晴公園 ★

純日本式庭園の旧岩船氏庭園(香雪園)を有する公園。

ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン 掲載地マップ

ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンに掲載された
21カ所(29の星)のスポットをご紹介します。



1 函館★

西洋と東洋の文化が調和した、異国情緒あふれるまち。
豊かな自然が織りなす四季折々の景観、
港町ならではの新鮮な食も魅力です。

2 函館山★★★

函館のランドマーク。三方を海に囲まれた、標高約334m、
12のコブ山が連なった山の総称で、牛が寝そべっているよう
「臥牛山(がぎゅうざん)」の別名を持ちます。

4 旧函館区公会堂★★★

1910年に建てられた、左右対称のコロニアル・スタイルが特徴的な建物。

5 旧函館区公会堂からの素晴らしい景観★★★

函館港を囲む函館の街が一望できる、観光客に人気のペランダからの景観。

6 基坂★

旧函館区公会堂から函館山の裾野に伸びる、石畳が敷きつめられた美しい坂。

7 函館市北方民族資料館★

アイヌ民族など厳しい自然の中で生きてきた北方民族の貴重な資料を展示。

8 相馬株式会社社屋★

電車通りと基坂が交差する一角にあるルネサンス風の商家建築。

9 大三坂周辺の教会★

教派の異なる3つの教会が建ち並ぶ、風情漂う大三坂周辺エリア。

10 ロシア正教会(函館ハリストス正教会)★★

白壁に淡い緑色の屋根が目目をひくロシアビサンチン様式の教会。

11 カトリック元町教会の内装★

聖堂にあるローマ法王ベネディクト15世から贈られた木彫の祭壇が印象的。

12 東本願寺函館別院★

1915年に再建された日本で最初の鉄筋コンクリート造りの寺院。

ようこそ、潮風かおる 歴史と浪漫の街へ

函館

ミシュラングリーンガイドジャポン



赤レンガの倉庫に異国の香り漂う教会群。

古い映画のような懐かしさを感じる街並みに

人々の日常がとけ込み、今と昔が交差する街、函館。

さわやかな潮風に吹かれながら、歩いてみませんか。

マップ
1

■年間の主なイベント

箱館五稜郭祭(5月中旬)
恵山つつじまつり(5月下旬～6月上旬)
南かやべひろめ舟祭り(6月第2土曜日)
市民創作函館野外劇(7～8月上旬)
函館港まつり(8月1～5日)
湯の川温泉花火大会(8月第3土曜日)
はこだてクリスマスファンタジー(12月1～25日)
はこだて冬フェスティバル(12月1日～2月末)
五稜星の夢(12月1日～2月末)

■函館ロケ映画

「海猫」(2004年、森田芳光監督 出演・伊東美咲、仲村トオル)
「Little DJ～小さな恋の物語」(2007年、永田琴監督 出演・神木隆之介)
「犬と私の10の約束」(2008年、本木克英監督 出演・田中麗奈、加瀬亮)
「わたし出すわ」(2009年、森田芳光監督 出演・小雪、黒谷友香)
「海炭市叙景」(2010年、熊切和嘉監督 出演・加瀬亮、谷村美月)
「スノーフレーク」(2011年、谷口正晃監督 出演・桐谷美玲、青山ハル)



海炭市叙景
©2010佐藤栄志/「海炭市叙景」製作委員会



スノーフレーク
©2011乱及射/スノーフレーク製作委員会



函館は港からはじまりました

函館港はその形から「巴港(ともえこう)」ともいわれ、深い入江のある恵まれた地形は14世紀から水夫の間で「綱知らずの港」とも呼ばれていました。ペリーが来航した際にも「ジブラルタル海峡にも匹敵する良港」と絶賛を浴びたほどです。海運によって北海道の玄関口として発達、北海道が蝦夷地(えぞち)と呼ばれていたころから交易が盛んでした。

1859年、横浜・長崎とともに日本初の国際貿易港として開港以来、欧米文化の影響を受け、港から函館山ふもと一帯、とくに元町を中心に発展していきました。教会や寺院が肩を並べ、旧領事館、洋風建築、それぞれに名前がついた坂道など、異国情緒あふれる街並みは、当時の面影を今もくっきりと残しています。

函館山

函館のランドマーク、函館山。

三方を海に囲まれ、標高約334メートル、周囲約9キロ。牛が寝そべっているような形をしていることから「臥牛山」の別名で親しまれています。

頂上からの眺望が有名な観光スポットとして知られています。明治後期から1945年の終戦までの約半世紀、軍事要塞が築かれて一般市民の立ち入りが禁止されていました。そのため、手つかずの自然の宝庫であり、市民が気軽にハイキングを楽しむ憩いの場所でもあるのです。

「函館山」はいくつものコブ山が連なった山全体を指し、登山道は、旧登山道コースや宮の森コースなど10コース。それぞれに特色がありますが、どれも軽装備で、初心者でも1時間程度で登れます。

北海道の中でも温暖な気候であることから、道内で見られる植物の3分の1に当たる約600



種類の植物が生育し、また約150種の野鳥が生息し、津軽海峡を行き来する渡り鳥の休息地でもあります。

春には山野草の花が咲き乱れ、夏には深い緑の中での森林浴、秋には美しく色づいた紅葉と四季折々の植物が楽しめ、耳を澄ませばジジュウカラやヤマガラの鳴き声も。

市街地のすぐそばにある、自然のオアシス。すがすがしい空気を吸いながらの山登りもおススメです。

利用案内〔函館山ふれあいセンター〕

〒040-0044 函館市青柳町6番12号
TEL.0138-22-6799

地上の銀河

函館山からの眺望

ミシュラングリーンガイドジャポン



夕日が沈み、ゆつくりと夜のとぼりが下りる頃、眼下の街並みは美しい光のパノラマに姿を変えます。

世界一とも称される、函館の夜景。

大きく曲線を描く海岸線のカーブ、左右の海の暗闇と市街地の光のコントラストが絶妙で、その美しさは何度見てもためいきがこぼれるほど。

夏は津軽海峡に浮かぶイカ釣り船の漁り火が幻想的な雰囲気をかもし出し、空気が澄み渡る冬は、一つ一つの光がくつきりとさえ渡り、それぞれの季節によつて表情を変えます。







函館山 からの眺望

右手に津軽海峡、左手に函館港。函館山山頂展望台からは、左右の海に挟まれた函館の街並みが扇形の美しい曲線を描くありさまが一望できます。

真下に視線を落とせば元町の教会群、その奥に函館駅そして五稜郭タワー、右手の奥には飛行場の滑走路。市街地の建物のありかを一つ一つ見つけながら堪能できるのが、昼間の眺望の魅力。大森浜に打ち寄せる白い波や道路を行き交う車まで見え、まるでジオラマのよう。

天気が良ければ恵山や大沼湖畔の駒ヶ岳、津軽海峡の向こうの下北半島までぐると見渡せ、青い空の下、360度のパノラマ景観が満喫できます。

山頂まで3分で結ぶロープウェイは、日本最大級を誇る125人乗りのゴンドラ。年間110万人が利用し、函館山の自然や景



利用案内〔函館山ロープウェイ〕

〒040-0054 函館市元町19番7号(山麓駅)

TEL.0138-23-3105

■運行時間

〔始発〕午前10時～〔終発〕午後10時(10月16日～4月24日までは午後9時)

■搭乗料金

【大人往復】1,160円【小人往復】590円

函館山登山道は、一般車両について、夏期間(4月25日～10月15日まで)の午後5時～10時まで交通規制。
冬期間(11月中旬～4月中旬)も、積雪及び路面凍結のため通行止め。

マップ
3



函館山ロープウェイ

観を守るため支柱のないシンプルな構造で、CO₂の排出が少ない、環境にやさしい乗り物です。



旧函館区 公会堂

ミシラン・グリーンガイド・ジャポン ★★

基坂の坂上にはイチョーとブルーグレーに塗られたひとときわ目を引く、洋風建物がそびえます。1907年8月の大火で町会所を失った函館区民の有志が公会堂建設協議会を結成。当時の豪商・相馬哲平の資金提供を受け、1909年に起工、翌10年に竣工しました。

日本人が設計・建築した美しい建物で、イギリスの古典主義を簡略した様式の「コロニアルスタイル」と称されています。本館と付属棟からなり、木造2階建ての左右対称型。屋根窓を置き、玄関や2階ベランダの柱頭部には柱頭飾りがあるなど特徴的な様式で、国の重要文化財の指定も受けています。

内部はルネサンス風の面影を持ち、保存状態のよい家具や調度品が当時のおもむきをそのまま



利用案内

〒040-0054 函館市元町11番13号
TEL.0138-22-1001

■開館時間

【4月～10月】午前9時～午後7時

【11月～3月】午前9時～午後5時

■休館日

12月31日～1月3日（ほか館内整理休館日）

■入館料金

【大人】300円【学生・生徒・児童】150円

マップ
4

まに配置されています。貴賓室と応接室は壁、天井とも外国製の壁紙が使用され、マントルピース（壁つき暖炉）にも外国製のタイルが使用されています。また、天井の高い大広間は漆喰（しっくい）仕上げで、大きなシャデリアが並びます

1911年には皇太子殿下（大正天皇）の行啓の宿舎として、また、1922年には摂政宮殿下（昭和天皇）のご来道の際にも使用された由緒のある建物です。



2階ベランダ

旧函館区

公会堂からの

素晴らしい景観

大広間を抜け2階のベランダから眼下を眺めると、函館港を囲む函館の街が一望できます。目の前に広がる景色は、赤レンガ倉庫群をはじめ、五稜郭タワーなど市内の各観光名所など確認することができます。

青い海に白い波をなびかせて走る船をはじめ、函館どつく、函館市水産物地方卸売市場、青函連絡船記念館摩周丸など港町・函館の雰囲気を感じさせる光景も。ベランダを吹き抜ける心地よい潮風を感じながら、函館の景色を楽しむことができます。

美しい景色が広がるベランダは、観光客に人気の記念撮影スポットです。



御座所



大広間



縁側



利用案内[ハイカラ衣裳館]

■営業期間

3月1日～12月25日 ※12月26日～2月末は休業

■利用受付時間

【3月1日～3月31日】午前9時～午後4時30分

【4月1日～10月31日】午前9時～午後5時

【11月1日～12月25日】午前9時～午後4時30分

■レンタル料金 【衣裳1着】1,000円(20分間)

■ヘアメイク料金 【1回約5分間】1,000円

(ポイントメイク・ヘアセット・ティアラ・ネックレス・イヤリング等込)

●ハイカラ衣裳館
女性用ドレスをはじめ男性、女児、男児に対応した豪華な衣裳計80着前後をそろえています。函館港を一望するバルコニーや美しい調度品がそろった貴賓室・寝室などレトロな雰囲気になりながら撮影を楽しみ、函館の思い出を写真に納めてみてはいかがでしょうか。専属カメラマンはいないため、カメラやビデオは持参してください。衣裳に合わせたヘアメイクやアクセサリーの貸し出しも別途料金で行っています。



利用案内

〒040-0053 函館市末広町21番7号

TEL.0138-22-4128

■開館時間

【4月～10月】午前9時～午後7時 【11月～3月】午前9時～午後5時

■休館日

12月31日～1月3日（ほか館内整理休館日）

■入館料金

【大人】300円 【学生・生徒・児童】150円

マップ
7

ミシラングリーガイドジャポン★

函館市北方民族資料館

アイヌ民族をはじめウイルト民族、アリュート民族など厳しい自然の中で生きてきた北方民族の貴重な資料が並びます。

函館博物館旧蔵資料のほか、「アイヌの生活用具コレクション」として国の重要有形民俗文化財に

指定されている馬場脩氏の資料や児玉作左衛門氏の収集した資料を所蔵。美しい文様が入った衣服や装身具、儀礼用具などを間近で見ることができます。

予約不要で民族文様の切り紙細工（約15分間）も体験できます。

基坂

旧函館区公会堂から函館山の裾野に伸びる幅の広い坂です。

かつては街の中心の坂で、坂の上には松前藩時代は亀田番所、幕府直轄時代には箱館奉行所、明治時代は開拓使の支庁、函館県の県庁、北海道庁の支庁などが並び、別名「お役所の坂」、「御殿坂」などと呼ばれました。

明治時代には坂の下に里数を測る際の基点となる里程元標が建ち、札幌へと向かう函館本道の起点となったことが坂の名前の由来です。

石畳が敷きつめられ、花に彩られた美しい坂で、電車通りから函館山に向かって歩くと正面に旧函館区公会堂を見据え、振り返ると函館港を一望できます。坂沿いには旧イギリス領事館もありますので、電車通りからゆっくり



●坂の標識

函館山のふもとには、坂を紹介する標識が立っています。愛らしい鳥のモチーフがちよこんと乗った柱状の標識には、名前と簡単な由来などが書かれています。各坂から眺める景色も雰囲気それぞれ異なります。お気に入りの景色を探して、各坂を巡ってみてはいかがでしょうか。

マップ
6

相馬株式会社社屋

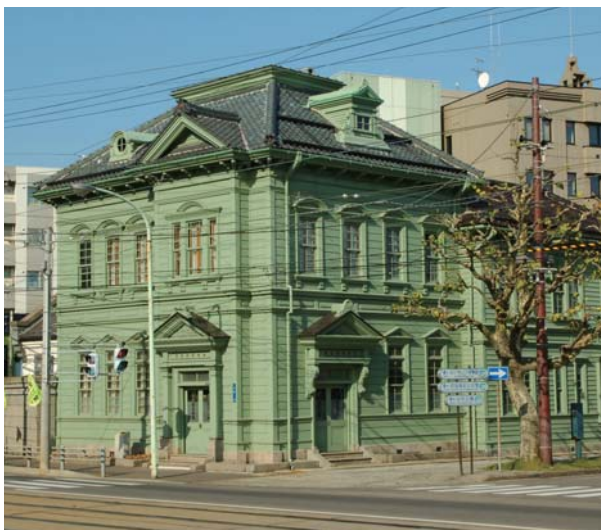
電車通りと基坂が交差する

一角に、若草色に塗られたルネサンス風の商家建築があります。

1863年、初代相馬哲平が弁天町に開業した米穀商を基とし、明治30年代には現在地に移転、現在の建物は1916年に

完成しました。

木造2階建てで棧瓦(さんがわら)ぶき屋根に、ドーマー窓を備えた建物は現在も社屋として利用されており、明治の函館の雰囲気を醸し出しています。



利用案内

〒040-0052 函館市大町9番1号

※見学は外観のみ

マップ
8



漆喰（しっくい）の白壁に、淡い緑色の銅板ぶきの屋根の外観が目をはきく「主の復活聖堂」。1916年に建てられたロシアビサンチン様式で、イコン（聖像画）が並ぶ聖堂内は、厳かな雰囲気にも包まれています。

1983年に国の重要文化財に指定され、鐘楼にある大小6個の鐘が鳴り響く柔らかな祈りの音色は、「日本の音風景百選」に選ばれています。

利用案内

〒040-0054 函館市元町3番13号
TEL. 0138-23-7387

■見学時間

午前10時～午後5時（平日）

午前10時～午後4時（土曜）

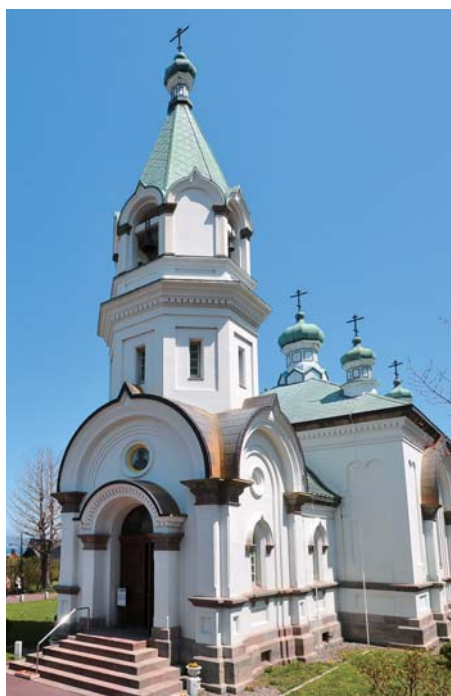
午後1時～午後4時（日曜）

■休館日

12月26日～3月中旬まで休み

■拝観料

200円



ロシア正教会 （函館ハリストス正教会）

ミシラングリーンガイドジャパン



大三坂周辺の教会

風情漂う大三坂。石畳が敷かれた坂の両側に、洋風建築や和風建築の趣のある民家が並び、秋になると紅葉したナナカマドが彩りを添えます。

かつて坂の入り口に地方から公用でやって来る人たちのための「大三」という家印の郷宿があったことが坂の由来になっており、1987年に「日本の道百選」に選ばれました。

函館山に向かって石畳をのぼっていくと、カトリック元町教会、函館ハリストス正教会、函館聖ヨハネ教会の教派の異なる3つの教会が寄り添うように建ち並びます。

大三坂から続くチャチャ登り近くの函館聖ヨハネ教会は、十字架型の外観が目をはきまします。1874年に英国人宣教師のW. デニング司祭が伝道活動をはじめたのがはじまりで、明治期には女子の高等教育や医療活動、貧民救済に力を注ぎました。現

在の聖堂は1979年に完成。他の教会と同様、多くの観光客が訪れています。

2011年秋には、西部地区のカトリック元町教会、函館ハリストス正教会、函館聖ヨハネ教会、日本基督教団函館教会が連携し、「元町・教会めぐり」が初めて企画されました。参加者は異教派が集まる函館の歴史を再認識し、東日本大震災の犠牲者、被災者に祈りをささげました。

利用案内[函館聖ヨハネ教会]

〒040-0054 函館市元町3番23号

※見学は外観のみ

マップ
9



利用案内

〒040-0054 函館市元町15番30号

TEL. 0138-22-6877

■見学時間

午前10時～午後4時 ※教会使用時は見学できません

■休館日

12月30日～1月3日休み

マップ
11

カトリック元町教会の内装

教会の歴史は1859年にフランスから宣教師メルメ・デ・カシヨンが来函したことに始まります。現在の聖堂はゴシック建築で、1924年に完成しました。

聖堂内の天井は水色に塗られ、金色の星が散りばめられてい

ます。イエスキリストの14の場面を木彫で表した壁像「十字架の道行き」と木彫の祭壇は、ローマ法王ベネディクト15世から贈られたもので、ヨーロッパのチロル地域の職人が作つたと言われています。



東本願寺函館別院

(正式名称)
真宗大谷派函館別院

大火の多かった函館。同寺院も1907年の大火で本堂などが焼けました。そして1915年、大火で寺院を失いたくないという先人たちの思いが込められ、日本で最初の鉄筋コンクリート造の寺院として再建されました。

正門を入ると、日の光を浴びて黒く輝く大きな瓦屋根が目立つ本堂が構えます。建物には約3万8000枚の瓦が使われており、2007年に国の重要文化財に指定されました。



利用案内

〒040-0054 函館市元町16番15号

TEL. 0138-22-0134

■見学時間

午前7時～午後5時(見学可能)

マップ
12



八幡坂

坂の名前の由来は、昔、坂を登り切ったところに箱館八幡宮があったことから。眺望の素晴らしさから映画やテレビドラマのロケ、CMなどで使われることも多い人気の坂で、カメラを構える大勢の観光客でにぎわっています。

坂は情緒あふれる石畳で、歩道には階段と手すりつきのスロープが整備されています。坂の上には函館西高校があり、坂の頂部から見下ろすと、石畳の先の函館港にはかつて青函連絡船として活躍した摩周丸が停泊。坂からまっすぐと伸びる港町らしい絶好のロケーションが広がります。

冬になると、坂の両側に植栽された木々にもイルミネーションがともされ、まるで映画のワンシーンのようなロマンチックな夜景が楽しめます。



マップ
13



函館港の散策

開港都市函館。港沿いは駅前から西部地区にかけて函館の魅力を凝縮した街並みが続き、食や景色、ショッピングなどが楽しめる観光スポットになっています。

駅近くには函館名物のイカ



をはじめ、さまざまな魚介類や野菜などが並ぶ「函館朝市」があります。函館山方面に進むと、観光施設としても有名なショッピングや食事が楽しめる金森赤レンガ倉庫群があり、明治期に建てられた美しい赤レンガ

の建物と港の風景ある景色が楽しめます。冬には、この地域を中心にイベント「はこだてクリスマスファンタジー」が開かれ、さまざまな催しが行われるほか、赤レンガ倉庫群前の海上で函館の姉妹都市であるカナダのハリファクス市から贈られる巨大なクリスマスツリーが点灯します。

マップ
14



箱館高田屋嘉兵衛資料館の蔵

1903年に建てられた1号館は石造り漆喰（しつくい）壁の1階建て、1923年建造の2号館は鉄筋コンクリート造1階建てで、かつて海産物倉庫として使われていた建物を利用しています。

館内では、江戸時代後期、函館を拠点に北前船で財をなした豪商高田屋嘉兵衛のゆかりの品々を展示しており、船だんすや、筆と墨を入れる「矢立」など当時をしのばせる生活用品約500点が並びます。



利用案内

〒040-0053 函館市末広町13番22号
TEL. 0138-27-5226

■開館時間

午前9時～午後5時 木曜定休 ※1、2月は冬期休館

■利用料金

【高校生以上】300円 【小・中学生】100円

マップ
15



魚見坂

ミッドグリーンガイドジャポン



元町の坂

「坂の街」としても知られる函館。函館山の裾野には19の坂があり、情感あふれる街並みを形成しています。

市民や観光客にも有名な「二十間坂」は道幅が二十間（約36メートル）あることから名付けられた広々とした坂で、1879年の大火後に、防火帯として完成しました。冬には、街路樹にともしられるイルミネーションの輝きが雪景色を彩ります。

「南部坂」は、江戸幕府が蝦夷地を直轄していたころ、坂の上に南部藩の陣屋があったことが名前の由来です。緩やかな坂は、途中から傾斜がきつくなり、登りきったところには「函館山ロープウェイ」の山麓駅があります。

また、風情ある石畳の「大三坂」を登り進むと、道幅が狭く急な「チャチャ登り」があります。「チャチャ」はアイヌ語で「おじいさん」を意味し、おじいさんのように腰を曲げて登ることから付けら

れたようです。教会の間を通るこの坂からは、元町の異国情緒あふれる景色が見渡せます。

「目和（ひより）坂」は、坂の上から港を眺めて空模様を判断できることから名付けられたようです。函館市が伝統的建造物に指定する古民家など味わい深い建物が並び、坂の突き当たりには、道内で最も古く、1135年開基と伝えられる船魂神社があります。

坂のうち、最も西に位置する「魚見坂」。かつて回遊する魚群を見るのに最適な場所だったことから名付けられた坂です。周辺は閑静なたたずまいが広がり、天気が良ければ、眼下に駒ヶ岳まで広がる雄大な景色を眺めることができます。

坂を歩きながら、開港時の街に思いをはせ、函館の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。



高龍寺

曹洞宗の寺院で、北海道内でも由緒ある寺の一つで、1899年に建てられた本堂のほか、東北以北最大と言われる総けやき造りの山門、大火の教訓から造られたれんがの防火堀など10件が国の登録有形文化財に指定されています。

本堂の正面や山門などに施された獅子や龍などの彫刻が見事です。同寺院が所蔵する幡崎波響作「釈迦涅槃図」(北海道指定有形文化財)は毎年4月に一般公開されており、10月には「宝物展」も開かれています。



利用案内

〒040-0055 函館市船見町21番11号

TEL. 0138-23-0631

■見学時間

午前9時～午後4時(開門)

※拝観は午後3時30分まで

マップ
17



外国人墓地

開港都市函館。「外国人墓地」は、眼下に海が広がる閑静な場所であり、船の乗組員や宣教師、商人、領事など函館の繁栄のいしづえとなった先人が眠っています。

1854年にペリーが来航した

際、寄港中に病気で亡くなった2人の水兵を埋葬したことが始まりと言われています。開港とともに外国人も増え、1870年に外国人墓地設置に関する協定が結ばれました。

墓地は、ロシアの初代駐日領事



事ゴシケヴィツチ夫人が眠るロシア人墓地、れんが堀で囲まれた中華山荘(中国人墓地)、プロテスタント墓地、カトリック墓地と教派などによって区分され、外国人のほか、日本人も眠っています。

函館山を背に船舶が行き来する海を臨む墓地。函館の歴史をそつと見守っています。

マップ
18



箱館奉行所

五稜郭跡

ミシラングリーンガイドジャポン



国の特別史跡「五稜郭跡」は、1864年に完成した日本初の西洋式城塞です。現在は五稜郭公園として親しまれています。

五稜郭は、幕末の北辺警備や対外折衝を担う箱館奉行所を守るために築城されました。

蘭学者武田斐三郎がヨーロッパの城塞都市をモデルに設計し、稜堡（りようほ）と呼ばれる5つの角が配された五角形の形から、その名が付けられました。

箱館奉行所は、明治新政府によつて1871年に解体されましたが、2010年7月、140年の時を経て復元されました。

発掘調査の結果や古写真、古文書を基に、宮大工らが当時と同じ材料と工法で築き上げました。

3万8千枚使ったという屋根瓦は、4色の瓦をモザイク状に並べて当時の色むらを再現。4つの広間が連なる合計72畳の大広間は、建材が部屋の格



五稜郭跡の桜



市民創作 函館野外劇



箱館奉行所内



利用案内〔箱館奉行所〕

〒040-0001 函館市五稜郭町44番3号
TEL.0138-51-2864

■開館時間

【4月～10月】午前9時～午後6時

【11月～3月】午前9時～午後5時

■入館料金

【一般】500円

【児童～学生】250円

マップ
19

式によって異なります。柿ぶきの屋根のひさしや、何層にも塗り重ねた「黄大津」の土壁など、職人技の粋を集めた箱館奉行所は、どこを見ても目を見張る美しさです。

また、五稜郭跡は見どころがたくさん。約1600本のサクラは5月上旬に見頃を迎え、その後、フジやツツジが園内を彩ります。アカマツは、五稜郭竣工当時に移植され、現在、87本残っています。

7、8月には、園内を舞台に「市民創作 函館野外劇」が開かれます。函館の誕生から現在までの歴史を学べる内容で、一見の価値があります。



ミシマ・グリーンガイド・ジャポン



五稜郭タワー からの眺望

国の特別史跡「五稜郭跡」に隣接する五稜郭タワーは、上部が展望台となっています。

展望台の高さは、1階が86メートル、2階が90メートル。五稜郭が、均等に5つの稜堡（りょうほ）を配した星形の城郭だったと分かるのは、この場所ならではです。

ここでは、四季折々とうつろう五稜郭跡の姿を堪能できます。春は満開の桜でピンクに染められ、夏は鮮やかな緑で覆われます。秋の落ち着いた紅葉の雰囲気も印象的です。雪が積もった五稜郭跡は、まるで雪の結晶を思わせる美しさです。

五稜郭跡では、「市民創作函館野外劇」などさまざまなイベントが行われています。毎年12月から2月にかけては、堀の周囲1.8キロを電飾で彩る「五稜星の夢（ほしのゆめ）」が開かれます。暗闇に浮かぶ星形の明か



利用案内〔五稜郭タワー〕

〒040-0001 函館市五稜郭町43番9号
TEL.0138-51-4785

■営業時間

【4月21日～10月20日】午前8時～午後7時

【10月21日～4月20日】午前9時～午後6時

※「五稜星の夢」開催期間は午前9時～午後7時

■展望料金

【大人】840円

【中高生】630円

【小学生】420円

りは、息をのむほど幻想的です。
五稜郭跡の南西側には、函館山がどっしりと構えています。この山は、牛が寝そべった形に似ていることから「臥牛山」とも呼ばれています。地上では「臥牛」の形を想像しにくいですが、展望台で「なるほど」と感じてもらえるでしょう。
360度のパノラマを楽しめ、晴れた日には青森県の下北半島が望める五稜郭タワー。夏から秋の夕暮れ時に海を照らすイカ釣り船のいさり火や、遠くに見渡す雄大な山並みなど、心に残る風景がきつと見つかります。



園亭

ミッドラングリーガイド・ジャポン★

見晴公園

温泉街・湯の川地区にほど近い総合公園「見晴公園」は、純日本式庭園の「旧岩船氏庭園（香雪園）」やゴルフ場、野球場を有し、市民の憩いの場として親しまれています。

香雪園は、道内で唯一、国の指定を受けた文化財名勝庭園です。函館の豪商、岩船家が明治期に造成し、別荘として使われていました。京都の浄土宗知恩院の管長（かんちょう）が函館を訪れた際、「雪の中に梅香る園」という意味で香雪園と名付けたそうです。

庭園には、茶室の様式を取り入れた書院造りの園亭が建っています。園亭前にある池には雪見灯籠（とうろう）があり、雪が積もると和の趣が漂います。

園亭のほかにも、見どころはたくさんあります。上品なたたずまいの春日灯籠は、高さ2.7メートル。奈良県の春日大社に多く見られるタイプの灯籠で、丁寧

な造りが目を引きます。温室は、1908年、明治末期に完成したといわれるレンガ積み建物で、現存する同様の建物としては大変貴重なものです。

見晴公園は、市内有数の紅葉スポットでもあり、シーズンになると大勢の人が訪れます。秋には夜間のライトアップもあり、いっそう鮮やかな光景が広がります。

園内にはモミジのほか、サクラやスギなど約150種類の樹木が植えられています。木々が織りなす四季の姿を見ながら散歩すれば、身も心もリフレッシュできることでしょう。

利用案内
「見晴公園緑のセンター」

函館市見晴町56
TEL. 0138-57-6210



函館まちあるきマップで懐かしさを訪ね歩く

異国情緒が色濃く残るレトロな街並み。

戊辰戦争最後の舞台となった五稜郭。

この戦争で負傷した兵士が傷を癒やした湯の川温泉。

初めて訪れる人でもなぜか懐かしさを感じる函館の魅力をたっぷり味わうなら

なんといっても「まちあるき」がいちばんです。

函館まちあるきマップ

まち・歴史・人などテーマに沿った全22コース

HPからダウンロード可能です。

URL:http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/kankou/hako_machi/



函館まちあるきイベント「てくてくはこだて」

まちあるきを気軽に、そして、じっくり楽しむことができるイベント

「てくてくはこだて」を毎年夏に開催しております。

函館をまるごと堪能するなら、是非ご参加下さい。

【お問合せ先】函館市観光コンベンション部観光振興課

電話 0138-21-3383

URL:<http://www.hakodate-machiaruki.com/>

函館市公式観光情報サイト“はこぶら” URL: <http://www.hakobura.jp/>

発行

函館市観光コンベンション部

〒040-8666 函館市東雲町4-13

TEL.0138-21-3323 FAX.0138-21-3324

Eメール kankoubrand@city.hakodate.hokkaido.jp

協力

日本ミシュランタイヤ 株式会社

編集協力

北海道新聞 函館支社

